

併せて実施する機関紙コンクールにおいて表彰することを確認しました。

また、組合活動の原点は分会活動であり、その活動を周知する分会ニュースは極めて重要です。今年度は、分会ニュースの発行に特に力を入れることとし、発行された分会ニュースについては、全て本部に集約することも併せて確認しました。

④ ホームページの充実  
ホームページは、組合員に対する情報の発信、過去の資料の閲覧等の機能だけでなく、外部へJR西労組運動を発信する役割も果たしています。

現在ホームページの閲覧数は月当たり約14,000件となっており、一昨年より2,000件程度多くなっています。また、春闘の取り組みを行っていた昨年3月には、20,000件を超える閲覧がありました。今年度も引き続き、内外にJR西労組運動を分かりやすく、動きあるものとして情報をリアルタイムに発信していきます。

また、各地本・総支部が発行する機関紙情報についても、中央本部で集約し、ホームページへの掲載を行うこととします。

⑤ ダイレクトメールニュース（携帯メールによる情報伝達）  
携帯メールによる情報伝達の登録者総数は、前回大会以降の各級機関における登録者拡大の呼び掛けにより増加傾向にあります。特に、2017春闘時期に合わせてダイレクトメールニュースの登録拡大の取り組みを行い、2017年1月～3月までに370件の拡大がありました。その結果、2017年12月末時点の登録者総数は約2,500件となっています。

また、情報の速達性を重視し、春季生活闘争の交渉終了直後にダイレクトニュースを発信するなど、前回委員会以降46回（1月9日現在）の発信を行ってきました。

組合員に対して、JR西労組運動を直接かつリアルタイムに発信するツールとして、非常に有効な手段であるため、より一層の登録者拡大に取り組んでいくこととします。

⑥ JR西労組LINEの試行について  
若手組合員からの、「メールはあまり見ない」との声や、SNSの普及状況を踏まえ、JR西労組LINE（テスト版）を限定的に試行開始します。

JR西労組以外のユーザーでも「友だち」になることが可能であるため、しばらくの間、ホームページに掲載する情報をリアルタイムに発信することとし、本実施への移行は施行状況や組合員の声を確認し、改めて判断します。

### ⑦ JR連合の情宣の取り組み

JR連合ニュースおよびJR連合機関誌「てるみに」をはじめ、部外機関誌等にも各級機関の協力を得ながら、積極的な投稿を行ってきました。今後もJR西労組として、西日本連合に集うグ

ループ単組とも連携しながら、機関紙「JR連合」、機関誌「てるみに」にホットな情報を発信していくこととします。

### (3) 当面の文化・レク活動の取り組み

第29回定期大会での本部方針に基づき、昨年9月20日に開催した「第1回、文化・レク対策委員会」での確認を踏まえ、以下の計画で当面の活動を進めていくこととします。

### 《第21回JR京都駅ビル大階段駆け上がり大会》

春闘の前哨戦、冬の京都の風物詩として定着した「JR京都駅ビル大階段駆け上がり大会」は、昨年が20回の記念大会であったため、過去最高の100チームの参加で開催しました。第21回の今年度は例年通りの80チーム参加のもと2018年2月24日（土）に開催します。

※KBS京都テレビで放映予定

3月10日（土） 18:00～18:55

### 《当面の文化・レク活動の計画》

#### ① 文化、文芸作品の募集について

前年度は、「コンクール部門」と自由テーマの「一般作品紹介部門」に分けて募集を行ってきました。昨年度から比べると、応募作品別、地本、総支部別で見ると、若干の偏りがあり、毎年、全体的に減少傾向となっていました。今回は増加しました。文化・文芸作品コンクールの本来の趣旨である「組合員の趣味等を通じて組合員相互の親睦を深める」の原点に立ち、コンクールの内容の見直しをこれまで行ってきました。

今年度も対策委員会での議論を経て、前年度同様に、「コンクール部門」と「一般作品部門」に分けて募集することとします。募集にあたっては、ポス



ター等を作成・掲示し、広く組合員に周知することとします。

#### ② レク活動について

趣味やスポーツを通じて組合員相互の親睦を深めるための文化・レク活動は労働組合として大変有意義な取り組みです。

2018年度のレク種目については既存のレクで開催を決定していますが、2019年度以降の種目については、女性組合員やシニア組合員の増加に伴い、レクリエーション活動に対する要望や課題が多く出されています。特に参加し易い環境（種目・ルール）を求める声が大きいことから、その課題解決を図るため、参加組合員の偏りのある連盟の種目などを置換え、これまで男性組合員の参加しにくいレクリエーションを、女性組合員やシニア組合員が参加できるように一定の条件をつけ、種目に競技性を求めるのではなく、より幅広く組合員が参加できるように、既存の種目を見直し、複数の交代種目を設定したうえで新たな種目を開催していきます。

#### ◇ 女性組合員及びシニア組合員が参加しやすい種目の候補（案）

キックベース、リレーマラソン、オリエンテーリング、グラウンドゴルフ、ディスクドッチ、ソフトバレーボール、カラオケ

### 7 法対活動の取り組み

組合員の日常生活や業務上においてトラブルが無に越したことはありませんが、実際には仕事関係だけではなく私生活をはじめとする社会生活を営むうえで、様々なトラブルに巻き込まれるリスクは年々増加しています。そのトラブルや被害を最小限に食い止めるため、今年度もエリアごとに7名の顧問弁護士と顧問契約を継続し、債務関係や家庭問題を中心に多くの相談を受けています。

また、各級機関役員も世話役活動の一環としてサポート体制にあたっています。

### ◆ 当面するレク活動

種目	開催日	開催地本
第16回卓球大会	2018年2月14～15日	和歌山地本
第10回バレーボール大会	2018年4月9～10日	岡山地本
第10回綱引き大会	2018年5月17～18日	米子地本

早く気づき、当該組合員がいつでも気軽に相談できる体制、世話役活動を確立することとします。

### 8 青年女性委員会の取り組み

青年女性組合員は約8,500名、全体の約31%となっています。「明るく・楽しく・元気よく」を合言葉に「仲間づくり」を最大の目的とし、自主的かつ自立した青年女性委員会独自の活動を築き上げてきました。

昨年10月13日～14日に開催した第27回定期委員会の中で、組織脱退はJR西労組運動が組合員一人ひとりにまで理解されていないことが原因であり、一昨年の定期委員会で提起された「聴く力」と「伝える力」を養うことの重要性を全員が再認識する機会になりました。

JR西労組運動の次代の担い手である青年女性委員会が、組合員のための活動を展開するうえで、一人ひとりの組合員と対話すること、相手の気持ちを感ずること、自分の気持ちを伝えることは非常に重要になると考えます。一人ひとりの組合員とのコミュニケーションを大切に、互いに仲間を思いやる気持ちや育み、同じ目標に向かって共に歩んでいくことで、未来ある青年女性委員会活動が創り上げられます。

一人ひとりが自らの成長と後輩の育成を意識し、企画力・発信力を磨いていくことが必要です。引き続き「一人一役・全員主役」をサブスローガンに掲げ、「全員参加型」の運動を実現し、これまで以上に魅力ある活動を展開することで、JR西労組に加盟して良かったと組合員に感じてもらえるよう尽力していきます。

#### (1) 青年女性委員会の育成に向けて

青年女性委員会の育成を着実に実践していくために、年代や性別を越えた議論を積極的に行い、青年女性委員会活動を通じてJR西労組運動に参画し、知識や意識の向上を図りながら、組合役員の育成を継続していかねばなりません。今年度は、従来の泊まり重視型の活動を見直し、日帰りのレクリエーションや学習会を積極的に開催していきます。

内容についても、JR西労組が取り組む安全に関することや各種政策活動など幅広い選択肢の中から、議論のうえ決定することで、「今」の青年女性委員会に必要なものが得られるように進めていきます。

また、各地本・総支部では、青年女性委員が主体となり「ヤングユニオン研修」等を引き続き開催し、JR西労組に関わる第一歩を踏み出すキッカケ作りを積極的に進めていくこととします。

#### (2) 「指令所組合員との意見交換会」の開催

福知山線列車事故を契機に、普段顔を合わせる事がほとんどなく、無線等を通じた相手でもある大阪



総合指令所の組合員と京都・大阪・和歌山・神戸・福知山地本の青年女性組合員が、お互いの日々の疑問を解消し、信頼関係とチームワークをより強固にし、業務に役立てることを目的にこの意見交換会を開催しています。

また、昨年度の車両・施設・電気系統を対象とした意見交換会では、初めてグループ労組が参加しました。今年度は駅で働くグループ労組にも参加を呼び掛け、連携強化に努め、さらなる安全の確立に向けて取り組みを進めていきます。

#### (3) 収集ボランティア活動の継続実施

使用済み切手回収を通じた国際貢献活動は、地本・支部・分会の協力を得ながら取り組んでいます。近年のSNS等の普及に伴い、回収数は決まらず多くありません。集まった使用済み切手は、本部青年女性委員会が「JOICFP（家族計画国際協力財団）」へ送付し、発展途上国の女性の出産や育児の支援などに役立てています。主旨等を広く周知のうえ、引き続きの協力を要請します。

また、2006年6月に米子地本青年女性委員会から始まったプルタブ回収ボランティアは、現在ではJR西労組の枠を越えてJR西日本連合にまで広がっています。2014年に開催された第17回JR京都駅ビル大階段駆け上がり大会では、7年以上に亘り多くの組合員の協力により、目標としていた800kg（プルタブ約230万個）を達成し、京都府に寄贈しました。この成果を基に、引き続き取り組みを進め、12月末現在約437kg集約しております。

「誰でも、どこでも、簡単に」取り組める内容であり、組織として活動内容の周知を図り、多くの方に参加していただくよう、活動を継続していくこととします。